第 102 回長崎大学FD実施報告書

2014 年　3　月 3　日 提出

1. 題目	初習外国語(中国語、ドイツ語、韓国語、フランス語)の成績平準化について
2. 開催日時・場所	日時：平成 26 年　2 月 1 日（ 土 ）　：　13:30 ～16:30 場所：C-35（CALL）教室、その他
3. 主催	初習外国語小委員会
4. 参加者数 (別紙に参加者名簿を添付すること)	２１人
5. 長崎大学 FD に関する指針第二項への該当について 【複数選択可】	該当するものに○を記入すること [　○　] (1)　教員の教育活動に関するもの [　○　] (2)　カリキュラムの改善に関するもの [　　] (3)　教育の組織的改善に関するもの [　○　] (4)　その他教育改善に関するもの
6. 今回の FD の主旨・意義 (5.に関連した形で記述すること)	本年度からすべての初習外国語で統一試験が実施されるようになった。統一試験実施において、学生が一番不安に思っているのは自分の担当教員以外の教員が試験問題を作成した場合、習っていない問題が出題されて不利になるのではないかという点である。そのような学生の不安を取り除くためにも、非常勤を含めた全教員が共通シラバスに沿って授業を行い、評価方法も統一する必要がある。 以上の点を踏まえてFDを実施し、前半と後半に分ける。前半ではまず言語教育研究センター長が全教員に対して本学の初修外国語教育の目的や方向性を明確に伝える。次いで大学教育イノベーションセンターの山地教授が「授業評価」を分析し、成績の平準化とは何かといった根本的な問題についても改めて全員で考察する。後半では、各言語の担当教員に分かれ、現在まで実施した統一試験を総括し、共通指導項目の周知徹底化を図り、各外国語に適した授業内容の改善と学生の自宅での学習を 促す措置など について話し合う。
7. プログラム構成 [題目・担当講師] (当日使用した資料等を添付すること)	１．教養教育における外国語教育の改革について　（稲田センター長） ２．初習外国語の授業評価の分析 成績平準化についての考察　（山地教授） ３．共通指導項目と各言語指導内容について　（楊、大橋、葉柳、仲井委員） ４．自学自習について　（楊、大橋、葉柳、仲井委員） 司会進行　（大橋委員 ）
8. 実施した FD の成果等 (アンケート等の資料がある場合は添付するこ	＜ドイツ語＞ １．ドイツ語統一試験の検討 1)共通語彙リスト：共通語彙リストを導入したことに関する検討を行った。本年度作成したリストは、結果として「当該級の検定で 100 点またはそれに近い成

と)	績で合格するためのリスト」であるが、来年度は「当該級の検定にほぼ確実に合格するためのリスト」にする必要がある。他大学の事例を検討し、最小限覚えておくべき単語を絞り混む作業を行うことになった。特に動詞に関しては例文を付す必要が指摘されたが、これについては来年度は各教員が個別に対応することになった。 2）試験問題と正答率：葉柳教授の担当クラス（ドイツ語 I）に関して、設問ごとの正答率を配付し検討した。正答率を客観的に把握し、それを授業にフィードバックすることに意義を確認した。さらに、マークシート式の試験を採用することにより、選択肢ごとの分析にまで踏み込む可能性について検討した。 3）追試：追試の実施状況（1 名）について確認した。問題は生じていなかった。 ２．ドイツ語 III・IV 統一試験 ドイツ語 III・IV においても統一試験を行う可能性について検討した。 1）共通指導項目：共通指導項目に関して議論を行い、表の文法項目を III・IV いずれかの授業で必ず取り上げることにした。 2）共通語彙リスト：共通語彙の選定は、レベル、すなわち語数が増えれば増えるほど、困難になるため、当面作成しないことになった。 3）統一試験の実施：来年度に関しては統一試験の実施は行わず、共通指導項目に沿った授業を各担当者が行い、「多様性の中の統一」（EU のモットー）の可能性を探ることになった。 3.　自学自習 1）原則の確認：90 分の授業に対し、180 分の自学自習を行うことが大学における授業の前提であることを確認した 2）各教員の工夫の紹介：葉柳教授が今年度試験的に行った、自学自習時間の確認と質問・コメントの受付方法について紹介し、次いで各教員が行っている工夫について紹介しあった。 ＜中国語＞ 1)統一テストを総括した。 2)「中国語 III」「中国語 IV」の統一試験を、月・火のグループと木・金のグループに分けて２度実施することを決定した。 3)成績評価については、ＡＡを２割以下にすることを合意した。 4)小テストや課題を統一し、必修の単語も設定した。 ＜韓国語＞ 問題は見受けられないので、現在の授業・試験方法を続行する。 ＜フランス語＞ 1)問題は見受けられないので、現在の授業・試験方法を続行する。 2)過去にＣＡＬＬシステム上に載せていた小テスト・練習問題・単語リストを LACS 上に載せる。新たに作成する小テスト、練習問題等は今後基本的に LACS 上に載せるが、問題によってはＣＡＬＬシステムの問題作成、採点法が適して

	いるので、今後２つのシステムを使い分けて行くことを確認した。 ３）来年度は、学生達がフランス語を積極的に話せることを可能とするコミュニケーションを中心とした教科書を選択することを合意した。
9. 実施代表者の連絡先	氏名：初習外国語小委員会委員長　　稲田　俊明 部局：言語教育研究センター e-mail：　inadat@nagasaki-u.ac.jp　　内線：2379
10. 申請者の連絡先	氏名：初習外国語小委員会副委員長　　大橋 絵理 部局：言語教育研究センター e-mail：　eohashi@nagasaki-u.ac.jp　　内線：2086